

公の施設の指定管理者における業務状況評価

平成19年7月6日

施設名	高知県立歴史民俗資料館	所管課室	文化推進課
-----	-------------	------	-------

1 施設の概要

指定管理者名	財団法人高知県文化財団	指定期間	平成18年4月1日～平成21年3月31日
施設所在地	南国市岡豊町		
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・高知県の歴史、考古及び民俗(以下「歴史民俗等」という。)に関する資料の収集、保管及び展示 ・歴史民俗等に関する専門的な調査研究 ・歴史民俗等に関する講演会、講習会、研究会等の教育普及活動 ・高知県における文化財の保存、活用の推進 ・上記のほか、歴史民俗資料館の設置の目的を達成するために必要な業務 		
施設内容	<p>面積、施設・設備名、定員、開館時間、休館日、主な料金など</p> <p><建物> 延床面積4527.47㎡ RC造地上3階建</p> <p><土地> 124,520㎡</p> <p><主要施設> 常設展示室、企画展示室、体験学習室、AVホール、収蔵庫、燻蒸室、研究室、会議室、資料室など</p> <p><開館時間> 午前9時～午後5時</p> <p><休館日> 12月27日～1月1日</p> <p><主な料金> 常設展 一般450円 高校生以下、県内の65歳以上は無料 施設利用料 企画展示室23,470円(1日) AVホール14,990円</p>		
職員体制	特別職非常勤: 1人 常勤職員: 9人 契約職員: 9人 合計: 19人		

2 収支の状況

単位:千円

		平成17年度(決算)	平成18年度(決算)	平成19年度(予算)
収入	県支出金	152,664	165,336	165,557
	事業収入		6,598	5,732
	その他		1,822	3,865
	収入計	152,664	173,756	175,154
	(事業収入)注1	4,264		
支出	事業費	21,568	28,805	24,796
	管理運営費	131,096	131,745	138,795
	(うち人件費)	(83,486)	(84,885)	87,275
	その他	0	10,744	11,563
	支出計	152,664	171,294	175,154

注1 平成17年度は「指定管理者制度」導入前であり、事業収入は県の収入。

注2 平成18年度以降は文化財団総務部の経費を5つの施設で按分計上(平成17年度は美術館に全額計上)

3 利用状況

		平成17年度実績	平成18年度実績	前年度比
年間利用者数(単位:人) 注)貸館入場者を含む	常設展	5,088人	4,800人	-288人
	企画展	12,852人	27,570人	14,718人
	合計	17,940人	32,370人	14,430人
	<利用実績> 利用者数で見ると前年度比14,430人(80.4%)増の32,370人となっており、多くの県民の皆様にご足を運んでいただいたと評価できる。このことは、収入の目標を144%達成したことに現れている。			

利用者意見等の反映	利用者アンケート等の実施状況(時期・方法・回答数・調査結果等)												
	<ul style="list-style-type: none"> ・来館者アンケートの実施 ・館長を含む職員が来館者と対話(ニーズの把握) ・県内各地域で委嘱している「資料調査員」の情報分析 ・各分野の協力者、外部有識者による「歴史民俗資料館運営協議会」からの意見 												
その他特記事項	その他												
	<ul style="list-style-type: none"> ・クレーム情報は職員全員が情報共有し、事実確認をした後、改善を行っている。また、アンケート等の意見・クレームについては改善できる点は見直しを行い、可能な限り文書で回答している。なお、氏名、住所が分からない場合もあり、平成19年度からは、ホームページに「お客様の声広場」を設け回答を公開することを計画。 												
	<ul style="list-style-type: none"> ・ の館の利用のほか、以下のような活動を行った。 <table border="0"> <tr> <td>[教育普及事業] 講演会</td> <td>7回(635人)</td> </tr> <tr> <td>講座</td> <td>6回(126人)</td> </tr> <tr> <td>展示室トーク</td> <td>11回(328人)</td> </tr> <tr> <td>史跡めぐり</td> <td>3回(114人)</td> </tr> <tr> <td>ワカワカーク</td> <td>10回(189人)</td> </tr> <tr> <td>高知の食文化を味わう～食のこころ～</td> <td>11回(524人)</td> </tr> </table>	[教育普及事業] 講演会	7回(635人)	講座	6回(126人)	展示室トーク	11回(328人)	史跡めぐり	3回(114人)	ワカワカーク	10回(189人)	高知の食文化を味わう～食のこころ～	11回(524人)
[教育普及事業] 講演会	7回(635人)												
講座	6回(126人)												
展示室トーク	11回(328人)												
史跡めぐり	3回(114人)												
ワカワカーク	10回(189人)												
高知の食文化を味わう～食のこころ～	11回(524人)												

4 平成18年度業務評価

項目	状況説明
管理運営に関する評価	<p>公園を含む施設設備の管理、危機管理体制、法令遵守など適正な管理運営ができていると認められる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多種多様な資料の保存管理が大きな役割であるという特性があり、専門性の維持と向上が不可欠。 ・県内唯一の重要文化財の公開承認施設として収蔵庫をはじめとする施設及び設備の管理を適切に行っている。 ・販売促進の取り組みや外部資金の導入などの収入増加の取り組みと、経費節減の努力をしていることが認められる。なお、集客力のある企画に向けて一層の工夫が必要と思われる。 ・歴史、民俗、考古という扱う分野の広さに比べて専門職員が少なく、可能ならば体制の充実が望まれる。 ・「ここに来れば楽しいことがある」という視点で運営に取り組んでいる点が評価できる。
事業の実施(企画及び運営)に関する評価	<p>資料の収集・保存・展示・企画事業、調査研究、教育普及の各事業において適正に事業が実施されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・寄贈資料、寄託資料の増加が顕著で、博物館として県民から信頼されている。 ・長宗我部氏関連の事業、古地図から伊能大図へという分野展開は、専門性と一般ニーズの双方に応えており企画の楽しさを感じる。 ・地味ながら充実した企画展ができている印象がある。 ・展示解説の表示方法については、入館者の立場にたって工夫を図る必要がある。 ・借上げバスを運行して来館困難地域からの子どもの来館をしてもらう事業は評価できる。 ・地域の食文化を取り扱った取り組みは、地産地消や食育といった最近の課題を取り上げている。 ・AVホールの貸出が不振だが、地理的施設的な面からやむを得ない。
総体的な評価	<ul style="list-style-type: none"> ・地理的な制約のあるなかで努力していることが認められる。 ・文化施設のなかでも、特に資料保存の役割が大きく、他の文化施設の資料保管も担うなど特別な機能を果たしている。
総合評価	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> ・民俗、歴史、考古等専門的になりがちな分野でありながら、一般の人々の興味を喚起する魅力ある企画展示に努めている。 ・教育分野への働きかけとして、出前授業、受け入れ授業を積極的に行っている点は評価できる。 ・施設の場所が市街地から遠いこと、交通機関の利用がしづらいことなど立地条件の悪さがある。その上でも、疎遠さのイメージを克服する取り組み、広報活動を期待する。 ・伊能大図展のように、館にこだわらず展示場所を柔軟に考え、県民に見ていただくという姿勢は評価できる。 ・相反することではあるが、資料保存に努めつつ、県民に広く資料を公開し見ていただくという視点が必要。 ・展示室や収蔵庫が狭いという施設構造面の改善、組織体制の充実については指定管理者だけの努力ではできない面があるため、県等との協議が必要。

【評価の目安】

- A: 仕様書の内容や目標を上回る成果があり、優れた管理運営が行われたもの
 B: おおむね仕様書の内容どおりの成果があり、適正な管理が行われたもの
 C: 仕様書の内容や目標を下回る項目があり、さらなる工夫・努力が必要なもの
 D: 管理運営が適切に行われたとは認められず、大いに改善を要するもの